

いま、家族の何が問題かー戦後の家族史を振り返ってー



著者 : 公益社団法人家庭問題情報センター
瓜生 武

定価 : 本体 1,334 円+税

判型 : A5 判

ページ数 : 232 ページ(本文 219 ページ)

ISBN : 978-4-906929-02-3

発行 : 平成 24 年 5 月

著者 瓜生武 プロフィール

元家裁調査官。退官後は大学で教鞭をとり、社団法人家庭問題情報センター理事、日本犯罪心理学会長、日本学術会議心理学研究連絡委員会委員、財団法人(現在は公益財団法人)日本調停協会連合会研修委員などを歴任。

内容

親子とは何か。夫婦とは何か。子育てとは何か。グローバル時代の家族をどう生きるか。家裁調査官としての豊かなケーススタディから生まれた知見に満ちた、家族のこれからを考える恰好の入門書です。
本書は、平成 22 年 2 月から 11 月まで「ケース研究」誌に連載されたものに、加筆補正を加えたものです。

[目次](#)

目次

まえがき			
第1章 いま、家族の何が問題か — 社会の視点から家族を眺めて—	第1節 戦後の家族史について	第6節 平成2桁代の非行と犯罪 (2000年代)	
第1節 人口構成の視点から	第2節 戦後社会の始まり — 貧困と混乱の中から— (1945年～1950年)(昭和20年～昭和25年)	第7節 少年非行史について	
第2節 社会福祉の視点から	第3節 社会変動に伴う家族の変動 — 急速な経済発展がもたらしたもの— (1951年～1959年)(昭和26年～昭和34年)	第5章 戦後半世紀の家族変動(後半) — バブル期から現在まで—	
第3節 少年問題の視点から	第4節 豊かさを求めた転換の時代 — 経済成長がもたらしたもの— (1960年代)(昭和35年～昭和44年)	第1節 バブルの時代— 高度成長の結末— (1980年代)(昭和50年代後半～昭和の終り)	
第4節 学校生活の視点から	第5節 管理社会化の時代 — 新しい時代が若者にもたらしたもの— (1970年代)(昭和45年～昭和54年)	第2節 失われた10年— 知られていない思春期への影響— (1990年代)(平成1桁期)	
第5節 精神医療の視点から		第3節 金融に明け暮れる世紀の夜明け — 経済システムと倫理という課題— (2000年代)(平成2桁初期)	
第6節 家庭相談からの補足		第4節 現代家族の動向と課題 — 家族機能の消滅と心の危機— (2010年代)(平成2桁期)	
第7節 まとめ		第6章 家族機能と心の機能の回復に向けて	
第2章 こころを作る家族関係	第4章 少年非行からみた思春期の 変化 — 養育環境の変化と社会への問題提起—	第1節 改善に向けての問題点	
第1節 “こころ”とは	第1節 戦後の少年非行史の概要	第2節 改善の動きについて	
第2節 生物史から見たこころの発生	第2節 団塊世代が示す第2の多発期(1960年代)	第3節 終わりに	
第3節 胎児期の発達とこころの形成	第3節 中間期の少年と非行(1970年代)	索引	
第4節 乳児期の発達と母子の交流	第4節 団塊ジュニアの非行(1980年代)		
第5節 幼児期の発達と養育行動	第5節 ポスト団塊ジュニアの非行(1990年代)		
第6節 乳幼児期から児童期へ: 3歳の意味			
第7節 児童期以後の発達と人間関係			
第8節 児童期の発達			
第9節 学童期の発達			
第10節 思春期・青年期の発達			
第11節 成人期の発達			
付 “こころ”の教育について			
第3章 戦後半世紀の家族変動(前半) — 終戦からバブル期前まで—			